

新しい緑化植物のコンテナ苗生産技術の開発

【研究概要】

民間企業による都市の再開発やリノベーションによる緑化に一定の需要がある中、枝葉のボリュームに優れるなどの品質の高いものが求められている。そこで、品質の高いコンテナ生産に向けて効率的な栽培管理方法を検討し、新しい生産技術を開発する。また、これら技術を活用し生産した高品質な大型コンテナ緑化植物の商品性を評価することを目的に試験を実施した。その中で今年度は下記の成果が得られた。

- (1) イヌツゲ「ヒレリー」外3樹種では、生育を最大限にするには、緩効性肥料の置き肥を4～8月の間で複数回の施用がよいと考えられる。
- (2) 地植え栽培で育成した苗を鉢上げして販売することを想定し、コンテナ栽培と地植え栽培での生育速度の比較したところ、地植えの方が生育に優れる樹種が多かったが、グミ「ギルトエッジ」など一部の樹種はコンテナの方が生育に優れた。
- (3) 直径18、24、30cmの3サイズのコンテナ栽培のオヤマシモツケ外4樹種について継続調査を行った。グミ「ギルトエッジ」などはコンテナを大きくするとその分地上部のサイズが大きくなるが、生育が緩慢な樹種は地上部のサイズへの影響は少なかった。